

「江内小学校の江内山田樂伝承活動の取組」

1 学校名

出水市立江内小学校

2 学年・人数

5年生（21人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和3年4月～9月 総合的学習の時間（本校体育館）

令和3年9月8～9日（中学生と合同で練習）江内中学校校庭

令和3年9月16日（木）（発表前の練習）江内中学校校庭

(2) 発表の日時・場所

令和3年9月19日（日）第7回小中合同運動会（オープニング）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

(1) 名称

江内山田樂（えうちやまだがく）

(2) 由来

山田樂は、山田昌巖が武士の戦う気持ちを高め、人をはげまし勢いをつけるために、今から350年ほど前につくった踊りとされている。出水地区内では、出水・高尾野・脇本などで踊りつがれている。士気を高める勇ましさの中に、戦いに送り出すもの悲しさを表現したのが「江内山田樂」である。

(3) 構成等

鐘・柴（鼓太鼓）・宮（大太鼓）の3つからなる。鐘の先頭の親鐘が要所で合図を送る。親鐘を先頭に柴と宮の太鼓が続いて練り歩き入場する。その後、3列になり正面を向き整列する。続いて鐘が内円、柴と宮が外円で、二重の円を作り演舞する。最後、再び3列で正面を向き整列、一礼した後そのまま退場する。1～6番からなる構成により、出征から凱旋の形を太鼓踊りで表している。

5 保存会や地域との連携の具体

総合的な学習の時間「ふるさと江内学」で、山田樂保存会や6年生の指導を受けて山田樂を伝承している。4月から練習に取り組み、9月の小中合同運動会で伝承した踊りを披露している。踊りを披露するにあたり、衣装の着付けや小道具の準備等で保存会や保護者の協力を得ている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

江内小学校と江内中学校は、小中一貫校である。そのため、9年間を通してふるさとを大切にする江内っ子の育成に当たっている。その中でも総合的な学習の時間「ふるさと江内学」の取組の一環である山田樂の伝承活動は、ふるさとの歴史や人物について学習するだけでなく、郷土への愛着をより高めるために、小学5年生と中学2年生と一緒に、小中合同運動会で踊りを披露することとなっている。今後も継続して保存会や地域と連

携して山田樂を伝承していける体制を整えている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【保存会の方の指導を受けている様子】



【小中合同練習】



【小中合同運動会】



【保存会の方による講演】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【5年生児童】

- ・ 山田樂保存会の方々に教えていただいた、「失敗を恐れない」という気持ちの大切さを感じました。はじめは、間違っていたら怖いという気持ちで失敗を恐れていて音が小さかったけど、失敗を恐れずにやってみたら、大きな音が出せたのでよかったと思いました。
- ・ 山田樂は、一人ではやっていけず、チームワークが大切だと感じました。これから委員会活動や掃除などで、みんなでチームワークを大切にしていきたいです。
- ・ 自身をもって強く打つことなど、山田樂で教わったことを来年の5年生にもしっかりと伝えていきたいです。

【保存会から】

- ・ 平成8年の江内中学校創立50周年記念事業の一環として、地域の伝統文化の掘り起こしがなされ、『江内山田樂保存会』が発足した。現在では、当時児童生徒だったメンバーが主に保存会を担っている。地域と学校が密に連携し、児童生徒の演舞を支援しながら安定した継承活動が行えている。
- ・ 運動会や地域のお祭り等での演舞により、地域の方に活力を与えると共に、子供たちの郷土愛の醸成に寄与している。保存会の会員も児童生徒との交流を通して、やりがいと自己有用感を得ることができている。
- ・ 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年、小学生だけで参加している紫尾神社豊年秋まつりが中止になった。そのため、踊りを披露する機会は減ってしまったが、練習を通して、郷土芸能を伝えることの大切さと物事に向かう姿勢を伝えることができた。